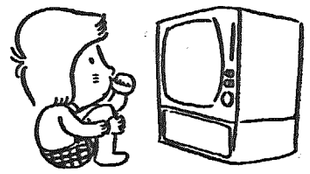
たちにとって



テレビとは！

欲しい真剣な対応

"テレビ漬"の子ども

"テレビ"今では情報化社会に欠かせぬものとなりました。

テレビは"文明の最高の利器"であるが、また弊害も大きい。と指摘する声が教育者やマスコミ関係者等からあがっています。とくに子どもたちにとってテレビとは?。

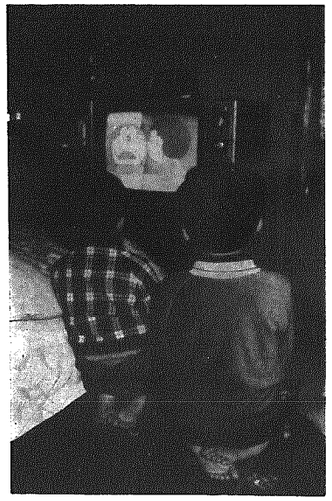
テレビCM(宣伝)の誇大、多量。毎日四～五時間もテレビにかじりついているテレビ漬の子ども。テレビの普及とともに、本を読まなくなった。親子の会話が少なくなったことも事実。

青少年の非行、体力・視力の低下が増えている実態も、テレビの普及と無関係ではないのでは。と……?。

今、様々な問題提起がされています。

横越小学校では、今年三月子どもの「テレビ視聴実態調査」結果を横越小だよりに掲載されました。子どもたちがどのようにテレビにかかわっているか、テレビが子どもたちにどんな影響を及ぼすだろうか。を興味深く読み、初めて知った子どもとテレビの関係を、そしてテレビを「本当の文明の利器」としてどう使うべきかを考えさせられました。

"テレビの見方、これでよいか"グサリ私たちの胸をつかれた思いです。



テレビっ子

調査を終えて「四つのおねがい」は、示唆に富んだ提言です。真剣に対応せねばと思います。

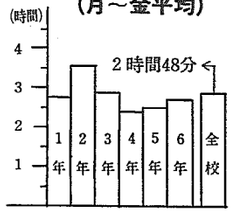
調査結果

(一部省略)

平均どのくらいの時間テレビを見るか

調査は、週を三区分し全校月～金曜日の平均が二時間四八分(表1)であり、そのほか土曜日では全校平均三時間二四分、日曜日は三時間一六分と調査はなっています。平均約三時間見ています。

〔表1〕テレビ視聴時間(月～金平均)



毎日どのくらいの時間テレビを見ているか

二時間以上もテレビを見て疲れないだろうか。五時間以上、テレビにかじりついている子どもがどの学年にもいます。"テレビ漬"要注意です

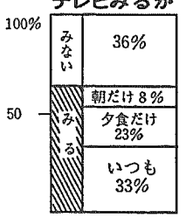
定期健康診断の結果、視力○・九以下の子が全校で二五〇人(三三・二%)もいること、テレビの見すぎと関係ないでしょうか。(表2参照)

食事をしながらテレビを見るか

食事をしながらテレビを見る子どもが半数以上六四%もいます。

「……ながらテレビ」は、大人子どもの区別なくあるのでは?

〔表3〕食事のときテレビみるか

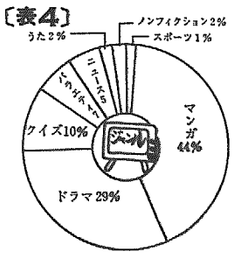


どんな番組を見ているか(全校比)

子どもにとって人気がある番組は、マンガ(四四%)、ドラマ(二九%)、クイズ(一〇%)、バラエテー(七%)の順、ニュースも五%。その番組内容でよく見ているのはマンガでは、日本むかし話鉄腕アトム、ドラエモンの順ドラマでは、トミーとマツ、金八先生。クイズでは、ザ・チャンスと一〇〇人にききました。バラエテーでは、全員集合。うたでは、ザ・ベストテン。ノンフィクションでは、野生の王国、ウルトラアイとなっています。このほか調査は「朝、テレビを見るか」(月～金)では、全校で見るが二九%います。「夜、九時～十一時のテレビを見るか」(木)では、見るが四六%います。

朝は三〇%、夜の九時すぎ(木曜日)ザ・ベストテン見たさに約半数以上の子どもたちが起きている。考えさせられます。"朝起きられない""朝食がとれない"と無関係でしょうか。

〔表4〕みている番組は



新春 俳句大会案内

日時　一月三十一日(日)
　　午前九時三〇分より
会場　横越村公民館
兼題
(一)読初(二)七草(春の七草若菜、若菜摘、薺、薺粥)　(三)凧(いかのぼり)
兼題メ切　三題通じて六句
　　56年12月15日(火)まで
　　公民館へ
席題　当日発表

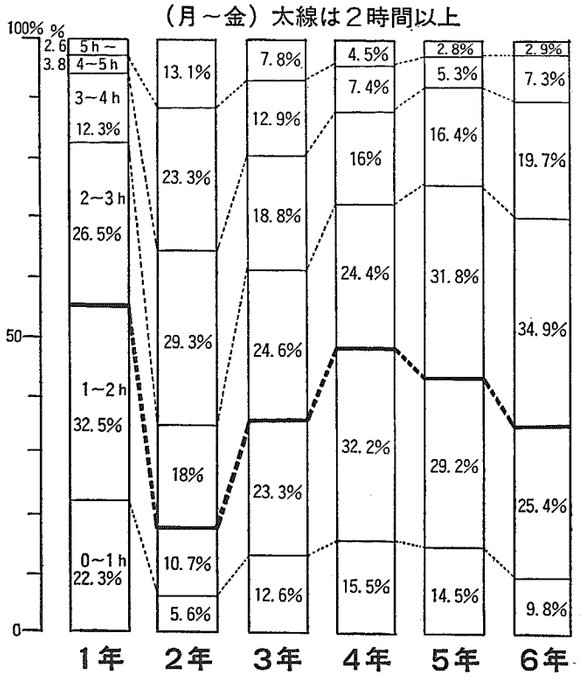
子ども

調査を終って
四つのねがい

①テレビ番組は、選んで見よう。目安として、一日二時間以内か番組は三つ以内。
②朝の生活リズム(洗顔・排便・道具揃え等)をきちんとするために、朝のテレビ番組は見ないようにしよう。
③食事をしながらのテレビ視聴はやめて、語らいの場としよう。
④テレビを見なくなった時間は、親子の対話、遊び読書、勉強、手仕事にふりあてよう。

〔表2〕毎日何時間テレビを見てるか

(月～金)太線は2時間以上



テレビが家庭で見られるようになったとき大宅壮一が「一億総白痴」の警告をだしました。それから二十年の年月がたちました。

横越村の家庭でのテレビの見かたの実態はどうでしょうか。小学校の子どもの実態からは次のような問題点が指摘できると思います。

まず、テレビを見る時間は、平時で約三時間、問題は見る時間帯です。登校前のマンガを見ているため、忘れ物、スクールバスにおくれる。また十時すぎの番組を見て、翌日は保健室で休養する。この悪循環はなかなか立ち切れません。

テレビを考える

横越小学校長
中村秋郎

次に、テレビがもたらす問題点は健康上のこと、学習上のことといろいろありますが、一番気になるのは心の発達が正常になっているだろうかということです。子どもたちに楽しいことにどんなことがあるかと聞きますと「テレビを見ているとき」「マンガを読んでいるとき」を一番にあげます。つまりこのことは小さいときから孤独の時間を楽しむ傾向が育っているのです。テレビを見ながらの食事はこれを更に助長してはいないでしょうか。社会生活に必要な力、集団生活で必要な力がなかなか育ちにくいのはこのへんにも関係がありそうです。

青少年の非行・体力・視力の低下がテレビの普及と同じカーブで増加している実態があります。一億総白痴にはならなかったが、人間生活の基本にかかわる問題が生まれてきたようです

テレビの見かた、見せかたはこれでよいか!!。

※　※　※

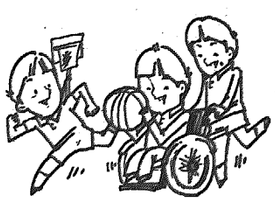
手足の不自由な子どもを育てる運動　11月10日～12月10日

温かい手をさしのべよう

手足の不自由な子供――肢体不自由児とは、病気が原因で手足や背骨の機能に障害のみられる子供たちです。原因としては、脳性マヒ・筋ジストロフィ・ベルテス病などがあげられますが、なかでも脳性マヒによるものが多くなっています。

脳性マヒなど、大脳に障害を持った人々は、適切な訓練をすることで手や足に"命令"を伝える別のルートが生じてくる可能性があります。この別のルートを探したり、機能の回復を図るためにリハビリテーションなどの訓練が行われます。

こうした障害に、早期発見早期治療が効果的であるのはいうまでもありませんが、訓練を行う専門職員は、まだまだ不足しています。

ことしは「国際障害者年」また十一月十日から十二月十日まで「手足の不自由な子どもを育てる運動」が行われます。障害に対する理解を深めできる限りの協力をすることが大切なことです。

障害を持つことは、決して他人事ではなく、わたしたちのだれもがその可能性を持っているといっても言いすぎではありません。